

科目名		現代社会論特殊講義Ⅱ	
担当教員	江藤俊昭	科目区分	選択科目
開講区分	後期	単位数	2単位
曜日時限	水曜・1時限	開講年次	1年
到達目標	<p>現代社会は、大きな転換点にある。グローバリゼーション、情報化といった用語は単に傾向を表現するものではなく、現実となっている。同時に、現実はいずれに新たな意味を付与するようになっている。また、日本をはじめいくつかの国においては、少子高齢化の進展に伴う人口減少が地方の衰退、国力の衰退を招く時代にもなっている。</p> <p>こうした現代社会の動向を総合的に確認することを目的としている。同時に、現代社会の動向だけではなく、現代社会を見る方法論についても確認したい。公共政策専攻で研究を目指している大学院院生にとって重要な科目である。</p>		
授業概要	<p>日本を中心に現代社会を多角的に考え、今後の社会のあり方について学ぶ。トピックは、授業計画にあるとおり、広範囲に行う。テキストを事前に読み、それをもとに講義した後で、その内容について討議する。2回で1テーマを扱う。最終日にはレポートを提出する。現代社会論特殊講義Ⅰとの連続で講義する。</p>		
授業計画			
回数	内容		
第1回	家族とライフコースⅠ（家族の課題の歴史の変遷——1970年代～2010年代、家族をめぐる今日的課題）		
第2回	家族とライフコースⅡ（家族とライフコースへの政策的対応：課題と方向性）		
第3回	福祉Ⅰ（福祉の現代的課題）		
第4回	福祉Ⅱ（福祉への政策的対応：課題と方向性）		
第5回	メディアⅠ（メディア論の射程——何が問題とされてきたのか、新聞・テレビの「現在」とジャーナリズム・世論）		
第6回	メディアⅡ（メディアへの政策的対応：課題と方向性）		
第7回	情報とITⅠ（情報とITをめぐる歴史的視点、情報・ITをめぐる現代的課題）		
第8回	情報とITⅡ（情報とITへの政策的対応：課題と方向性）		
第9回	環境問題と環境保全Ⅰ（環境社会学の研究動向、環境保全と観光をめぐる現代的課題）		
第10回	環境問題と環境保全Ⅱ（環境問題と環境保全への政策的対応：課題と方向性）		
第11回	災害と避難Ⅰ（望ましくない対応をとる人々の意識とその特性、「東日本大震災」における津波被災地の人々の避難）		
第12回	災害と避難Ⅱ（災害と避難への政策的対応：課題と方向性）		
第13回	グローバル化と国民国家Ⅰ（世界経済の拡大と東アジア、冷戦後のグローバル化と日本）		
第14回	グローバル化と国民国家Ⅱ（グローバル化と国民国家への政策的対応：課題と方向性）		
第15回	現代社会のゆくえ（転換期の人間文明への視点と方向性、現代社会のゆくえ：「転換期の人間文明」への視点）		
準備学習等（課題・予習・復習・調査等）	テキストを事前に読み、それをもとに講義した後で、その内容について討議する。2回で1テーマを扱う。		
評価方法・基準・講評の方法	<p>報告とレジュメ（40点）、レポート提出（60点）によって評価する。</p> <p>講評は、個別にメールで対応する。</p> <p>なお、レポート・テーマは、授業で議論して興味を持ったものとする。4000字程度とする。</p>		
テキスト・参考書	<p>松野弘編『現代社会論』ミネルヴァ書房、2017年。</p> <p>参考文献は、その都度指示する。</p>		
前年度の授業をふまえた今年度の授業方針	<p>授業アンケートによれば、授業での教材や講義、その後の討議について問題はなく（充実）、基本的に踏襲する。なお、講義途中でも要望があれば授業方針を変更する場合もある。</p>		
学生へのメッセージ	<p>テキストの該当箇所を事前に読み、論点を明確にしておくこと。</p>		
授業に参考となるサイト	<p>各省のHP参照。</p>		
関連する画像			

その他・備考